

生活クラブ風の村2011年度事業計画

共通の課題

1 社会福祉法人の社会的使命として、地域福祉に貢献します。

- ① 地域ごとの生活クラブ千葉グループ（以下千葉グループ）の連携を強化し、生活クラブ版地域福祉活動計画づくりと実行していくとともに、自治会、町内会、地区社協など地域の活動に積極的に参加し、地域の中での役割を果たすなど、地域資源のネットワークをつくります。
- ② 支援が必要な障がい者、高齢者、子ども、生活困窮者などを支える多様な地域資源のひとつとして、生活クラブらしさや強みを生かした地域活動支援センターは今後ますます地域に必要です。採算性の高い事業との併設等、既存・新規開設事業所への併設を検討します。また2011年夏にオープンする千葉市稲毛区園生団地の生活クラブいなげビレッジ虹と風（以下いなげビレッジ※「8」参照）を地域資源創出のモデルとして進めるとともに、社福減免制度等の低所得者への支援対策への積極的な取り組み、生活クラブ風の村独自の減免制度についても検討します。
- ③ 生活クラブの専門性を地域に提供し、地域福祉への理解を進めるため、地域住民や生活クラブ虹の街の組合員に向けた認知症サポーター養成講座を行い、地域のサポート体制を充実させます。
- ④ ユニバーサル就労（以下 UW）を促進させるべく、生活クラブ千葉グループ内で UW システムの定着を促し、UW 支援室を窓口として、就労希望者の個別適性に沿った仕事づくりを進めます。また、職員の理解を深め、各事業所で促進するために UW 担当者を全事業所に配置することを検討します。今後は、UW を「社会システム」として千葉県内に広めるため、積極的に広報活動を行ないます。

2 多様なインフォーマルサービスの創出を図ります。

- ① NPO やボランティア等による利用料金が低額な有償の福祉サービス等、既存のインフォーマルサービスとの連携を積極的に進めると共に、生活クラブのサービスとセットで提供できるよう連携を図ります。
- ② 千葉グループの団体や、定年後の職員等に働きかけ、多様なインフォーマルサービスの創出を図ります。

3 ケアサービスの質を高めます。

- ① 自立支援の視点に立ったケアプランの作成、全事業での個別支援計画の充実、サービスの質を評価する自主監査制度の整備、理学療法士、作業療法士、言

語聴覚士等の多職種のリハビリテーション部門の立ち上げの可能性を追求するなど、自立支援の観点に立ったケアの見直しを行います。

- ② 24 時間 365 日対応に向けた体制整備を検討します。
- ③ 行政区ごとに地域のニーズを把握し、インフォーマルサービスを含めた資源調査を、千葉グループと共に行ないます。この調査を基に、行政区ごとに長期的な事業戦略づくりを検討します。
- ④ インフォーマルサービスと連携を図るため、ケアマネジャーをはじめとした職員対象のインフォーマルサービスの理解を深める研修を強化し、利用者や家族等、当事者を講師とした研修を行ないます。
- ⑤ 在宅生活を支えるため、通い、訪問、泊まり、医療系サービスなどを備えた複合拠点をつくる等、現在ある事業所の複合化を進めます。
- ⑥ 複合拠点には、可能な限り、訪問看護ステーション、診療所などの医療資源、VAIC コミュニティケア研究所などの福祉資源を併設し、医療、介護、福祉の連携を図ります。
- ⑦ 研修の充実を図ります。※「5」参照

4 組織運営の革新

- ① 職員の運営参画を強めるために、職員の意見を運営に生かせる会議運営システムや、理事会、評議員会で職員自らが選ぶ職員代表が理事等として発言できる仕組み等を検討します。また、会議運営のスキルアップのために、所長等の運営責任者向けの研修を行ないます。
- ② 事業所の組織マネジメント力を強化するため、所長向けに組織マネジメントについての業務マニュアルの作成に着手し、研修を強化します。

5 人材育成、人材確保のシステムを構築します。

- ① 24 時間 365 日化への取り組みを行なうために地域包括ケアシステムについての研修を行ない、職員の地域福祉への理解を深めるなど人材育成のシステムを充実します。また専門性を高めるために、ICF の視点に基づいた研修を継続するとともに、認知症ケアの事業別項目別の体制、医療的ケアの緩和が行なわれた際の医療ニーズへの体制を整えます。
・管理職への研修体系を構築するとともに、外部団体主催のものも含めた研修受講に基づく生活クラブ独自の専門性評価システムを構築し、職員に見えやすく、モチベーションのアップにつながるキャリアア

ップの体系を整備します。

- ・生活クラブ風の村特養ホーム八街を生活クラブ風の村の介護系の人材育成拠点としての体制を整え、機能させます。
 - ・生活クラブ風の村全体で統一したサービスを提供するための業務マニュアルを定着、実行するため、業務マニュアルを反映させた自主監査を実施します。
 - ・千葉グループについての理解を深めるために一堂に会する場を年に1回設けることを呼びかけます。
- ②人材育成・確保のために労働条件の改善等に取り組み、いずれの等級、職種においても社会的な水準を上回る賃金体系を目指します。
- ・24時間365日化に対応する人材を確保するため、夜間や休日手当、休日や労働時間の見直しを行いません。合わせて業務分担の見直しを行ない、兼務などによる業務の偏りを改善すると共に、誰もが働きやすいユニバーサルな職場環境を整備します。
 - ・外部のカウンセリング機関との連携などを継続的に行い、職員のメンタルケアを充実させます。
 - ・「生活クラブ」というブランディングを活用し、全国から優秀な人材を確保すると共に、有資格者を積極的に確保します。
- ③全職員がより高い専門性を獲得し、自らの業務のスキルアップや、専門職への道をつくるために、「全職員資格取得運動(プラスワン運動)」に取り組みます。また資格取得に必要な経費の補助や、取得のために必要な休暇の保障等、資格を取得しやすい制度を検討します。

6 環境を保全し、持続可能な循環型社会づくりに取り組みます。

- ①事業所内など身近なところから、環境への配慮・省エネ・コスト削減(基本行動心得)を意識します。食の基本姿勢では食材だけでなく、消耗品等も環境に配慮した商品を使用することを定めており、この基本姿勢に沿って、使用購入する物品を選択します。
- ②生活クラブ虹の街が取り組む、地球温暖化防止に向けた活動、脱原発社会を目指した活動、資源循環型社会を目指した活動に積極的に参加し、持続可能な循環型社会作りに貢献します。

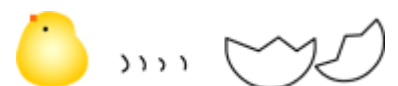
7 災害対策

3月11日に発生した東日本大震災では、生活クラブ風の村内では幸いに大きな被害はありませんでしたが、「災害対策指針・災害時の職員行動ガイド」の見直しが必要であり、今後は正確かつ迅速な情報収集・共有・選択から行動に移すことができるようにしてい

くとともに、千葉県内の被災地だけでなく、東北地方の被災地についても継続的な支援を続けます。

8 新規事業

- ①UR 都市機構の千葉市稲毛区園生団地の建て替え高層化に伴う空き地において、生活クラブ虹の街、VAIC コミュニティケア研究所、(株)生活サポートクラブ、ワーカーズコレクティブと連携し、「生活クラブいなげビレッジ虹と風」(2011年夏オープン予定)を運営します。生活クラブ風の村は其中で、福祉サービスを提供する「生活クラブ風の村いなげ」を運営し、千葉グループの諸団体と連携した地域包括ケア拠点を目指します。
- ②生活クラブ風の村特養ホーム八街において現在の特養50床、ショートステイ7床から特養30床、ショートステイ10床の増床を行い、2011年6月のオープンを予定しています。
- ③生活クラブ風の村あかとんぼ土浮で事業所として利用している古民家の老朽化や、生活クラブ風の村さくら全体の使い勝手の改善、事務所機能の混雑から、現在の生活クラブ風の村さくらの隣地である第4駐車場に、2012年度春頃に、生活クラブ風の村あかとんぼ土浮、生活クラブ風の村デイサービスセンターさくらの移転と、重症心身障害者の通所事業所の新規開設を目指します。
- ④生活クラブ在宅介護支援センターあいの手は、2012年度からの地域包括支援センター(我孫子市)受託に向けた準備を行いません。
- ⑤老朽化している生活クラブ風の村デイサービスセンター柏の移転を前提に、デイサービスあいの手再生プロジェクト会議を立ち上げ、柏市内での事業所複合化の可能性を検討してきました。用地を探している中で、生活クラブ風の村光ヶ丘の隣地活用が具体化しましたが、近隣との関係でデイサービスは事業化できず、同プロジェクト会議は一旦休止し、新たに光ヶ丘隣地複合化プロジェクト会議(仮称)を立ち上げます。柏市の福祉計画と調整しながら、小規模多機能型居宅介護、高齢者専用賃貸住宅等の併設を検討していきます。開設は2011年度末を予定しています。
- ⑥NPO 市川ガンバの会では、これまで支援してきた方々の高齢化、また、地域に低所得者が独居困難になった場合の受け入れ施設が少ないという現状を受け、軽費老人ホームの開設準備委員会を立ち上げ、低所得者向け住宅の構想について議論を重ねています。生活クラブ風の村もメンバーとして委員会に参加し、今後の協力体制について検討をしていきます。



～*～*～*～事業所名称一覧～*～*～*～

社会福祉法人生活クラブは2011年4月より呼称を「生活クラブ風の村」としました。また、生活クラブ風の村のほとんどの事業所では、以下の通り事業所名称と建物名称を変更しております。（生活クラブつうしん2011年春号1面参照）尚、電話番号等連絡先に変更はありません。

今号より、以下の名称で表記しておりますのでご参照ください。今後とも「生活クラブ風の村」をよろしくお願いいたします。

旧名称	新名称（2011年4月1日より）	建物名称
生活クラブ流山介護ステーションあいの手	生活クラブ風の村介護ステーション流山	
生活クラブ柏介護ステーションあいの手	生活クラブ風の村介護ステーション柏	生活クラブ風の村柏
居宅介護支援事業所あいの手柏	生活クラブケアプランセンター柏	
柏東口地域包括支援センター	柏東口地域包括支援センター	
生活クラブデイサービスセンターあいの手	生活クラブ風の村デイサービスセンター柏	
柏市地域生活支援センターあいネット	柏市地域生活支援センターあいネット	
地域活動支援センターまんてん	生活クラブ風の村まんてん柏	
サポートハウス光ヶ丘	生活クラブサポートハウス光ヶ丘	生活クラブ風の村光ヶ丘
生活クラブ光ヶ丘介護ステーション	生活クラブ風の村介護ステーション光ヶ丘	
生活クラブ我孫子介護ステーションあいの手	生活クラブ風の村介護ステーション我孫子	生活クラブ風の村我孫子
生活クラブ在宅介護支援センターあいの手	生活クラブ在宅介護支援センターあいの手	
生活クラブ市川介護ステーション	生活クラブ風の村介護ステーション市川	
ライフ&シニアハウス市川	ライフ&シニアハウス市川	ライフ&シニアハウス市川
サポートハウス高根台	生活クラブ風の村サポートハウス高根台	高根台つどいの家
高根台クラブ	生活クラブ風の村小規模多機能ハウス高根台	
生活クラブ船橋介護ステーション	生活クラブ風の村介護ステーション船橋	
デイサービスセンターどんぐりの家	生活クラブ風の村デイサービスセンター船橋	
生活クラブ津田沼介護ステーション	生活クラブ風の村介護ステーション津田沼	
さくら風の村ショートステイ	生活クラブ風の村ショートステイさくら	生活クラブ風の村さくら
さくら風の村デイサービスセンター	生活クラブ風の村デイサービスセンターさくら	
さくら風の村介護ステーション	生活クラブ風の村介護ステーションさくら	
さくら風の村訪問看護ステーション	生活クラブ風の村訪問看護ステーションさくら	
生活クラブ千葉介護ステーションすくらむ	生活クラブ風の村介護ステーション千葉	
生活クラブ市原介護ステーション	生活クラブ風の村介護ステーション市原	
生活クラブなりた介護ステーション	生活クラブ風の村介護ステーションなりた	生活クラブ風の村なりた
生活クラブともしびの家デイサービスセンター	生活クラブ風の村デイサービスセンターなりた	
生活クラブデイサービスセンターゆめぼっち	生活クラブ風の村デイサービスセンター東吉田	
特別養護老人ホーム風の村	生活クラブ風の村特養ホーム八街	生活クラブ風の村八街
生活クラブ風の村八街介護ステーション	生活クラブ風の村介護ステーション八街	
デイサービスセンター風の村	生活クラブ風の村デイサービスセンター八街	
生活クラブ風の村ケアプランセンター八街	生活クラブ風の村ケアプランセンター八街	
印旛学童クラブあかとんぼ土浮	生活クラブ風の村あかとんぼ土浮	
印旛学童クラブあかとんぼ下根	生活クラブ風の村あかとんぼ下根	
印旛学童クラブあかとんぼ飯野	生活クラブ風の村あかとんぼ飯野	
さくら風の村とんぼ舎	生活クラブ風の村とんぼ舎さくら	生活クラブ風の村さくら
流山わらしこ保育園	生活クラブ風の村わらしこ保育園流山	
風の村保育園	生活クラブ風の村保育園八街	
	生活クラブ風の村介護ステーション稲毛	【2011年夏開設予定】 [拠点総称] 生活クラブいなげビレッジ 虹と風 [生活クラブ風の村建物(社 福棟)] 生活クラブ風の村いなげ
	生活クラブ風の村デイサービスセンター稲毛	
	生活クラブ風の村ショートステイ稲毛	
	生活クラブ風の村訪問看護ステーション稲毛	
	生活クラブ風の村あかとんぼ稲毛	
	生活クラブ風の村サポートハウス稲毛	
	生活クラブ風の村園生診療所	
	生活クラブ風の村本部総務部	生活クラブ風の村さくら
	生活クラブ風の村本部財務部	
	生活クラブ風の村本部企画部	

** 2011年度当初予算 **

2011年度は事業活動収入を29億6千4百万円、事業活動支出を28億7千1百万円、経常収支差額6千1百万円で予算編成しました。最終的な当期活動収支差額は5千8百万円となります。また、2010年度の収支差額の一部を使い、地域福祉支援の積立を計画します。

予算の大きな特徴は、特養ホーム八街の増床（特養30床6月開設・ショートステイ10床7月開設）といなげビレッジ虹と風の開設（夏開設予定）となります。また、地域福祉貢献に向けた予算、職員の処遇改善及び研修の充実を図る予算編成を行いました。

I 主な経営数値

項目	数 値	10 予測比
訪問介護事業のケア時間	221,495 時間	107.7%
高齢者デイサービス利用回数	30,813 回	119.7%
居宅支援プラン数	17,585 件	110.5%
短期入所事業の受入れ件数	18,213 件	158.0%

II 事業別収入予算

単位：千円

区 分	収入額	区 分	収入額
ホームヘルプ事業	816,170	訪問看護事業	64,747
特別養護老人ホーム	399,926	診療所	59,066
有料老人ホーム・高専質住宅	302,646	地域包括支援	42,284
デイサービス事業	299,395	相談事業	28,340
ショートステイ事業	264,147	賃貸事業	14,041
居宅介護支援事業	220,779	ヘルパー養成講座	2,400
保育園	200,863	本部	1,584
障害者（児）事業	171,545	合計	2,964,411
小規模多機能居宅介護	76,469		

III 資金計画

単位：千円

1. 経常活動資金収支差額	159,664
2. 施設整備補助金収入	78,154
3. 施設整備等支出計	
①建設費（いなげビレッジ虹と風）	520,230
②備品購入（いなげビレッジ虹と風）	65,530
③備品購入（特養ホーム八街増床）	50,656
④建設費（特養ホーム八街増床）	33,560
⑤システム関係（PC、プリンター、ソフト類）	5,893
⑥その他（テレビ、エアコン、テント、他）	3,154
小 計	679,024
4. 財務収入計	
①借入金収入（いなげビレッジ虹と風）	467,795
②借入金収入（特養ホーム八街増床）	402,000
③積立金取崩収入（地域福祉支援積立金）	15,000
④借入金元金償還補助金収入	3,250
小 計	888,045
5. 財務支出計	
①設備資金借入金償還金	67,862
②地域福祉支援積立金支出	30,000
③修繕積立金支出	25,000
④施設・設備整備積立金支出	10,000
⑤その他の支出	12,325
小 計	145,187
6. 予備費	29,000
7. 当期資金収支差額合計	272,652
(1+2-3+4-5-6)	
前期末支払資金残高	23,895
当期末支払資金残高	296,547

IV 当期事業活動収支予算

単位：千円

		勘 定 科 目	金 額	10 予測比
事業活動収支	収入	介護保険収入	1,919,791	123.6
		自立支援費等収入	302,706	120.5
		療養費等収入	77,557	546.4
		運営費収入	140,651	94.1
		私的契約利用料収入	5,399	81.2
		入居者の生活援助住宅収入	231,424	114.1
		入居者の生活援助収入	70,520	242.3
		受託事業収入	3,539	722.4
		ヘルパー講座事業収入	2,400	100.0
		賃貸事業収入	12,047	-
		経常経費補助金収入	143,167	95.1
		寄附金収入	615	13.1
		雑収入	5,069	96.9
		職員等給食費収入	7,391	108.9
		借入金元金償還補助金収入	3,250	100.0
		国庫補助金等特別積立金取崩額	37,662	115.9
		就労支援事業収入	1,218	128.6
事業活動収入計 (1)	2,964,411	122.8		
事業活動外収支	支出	人件費支出	2,099,029	123.8
		事務費支出	349,907	97.0
		事業費支出	284,086	150.1
		減価償却費	126,887	152.5
		徴収不能額		
		引当金繰入	11,789	178.8
		事業活動支出計 (2)	2,871,700	123.0
		事業活動収支差額 (3) = (1) - (2)	92,710	118.7
事業活動外収支	収入	事業活動外収入計 (4)	12,060	24.5
	支出	事業活動外支出計 (5)	42,871	66.0
	事業活動外収支差額 (6) = (4) - (5)	△30,811	195.0	
経常収支 (7) = (3) + (6)		61,899	99.3	
特別収支	収入	特別収入計 (8)	78,154	63.9
	支出	特別支出計 (9)	81,404	64.8
	特別収支差額 (10) = (8) - (9)	△3,250	100.0	
繰越活動収支	当期活動収支差額 (11) = (7) + (10)		58,649	99.3
	前期繰越活動収支差額 (12)		274,936	125.1
	当期末繰越活動収支差額 (13) = (11) + (12)		333,585	119.7
	積立金取崩額 (14)		15,000	31.4
	積立金積立額 (15)		65,000	73.9
次期繰越活動収支差額 (18) = (13) + (14) - (15)		283,585	118.9	